

「しずかおり」の被覆適性と香り緑茶適性

[研究のねらいと取り組み]

- ・近年、消費者ニーズの多様化等に伴い、静岡県をはじめ全国的に多くの品種が生産されるようになった。
- ・「しずかおり(2015年品種登録)」は上質な味と香りが特長のやや早生品種であるが、近年、増加している直接被覆や、茶業研究センターで開発した香り緑茶に対する適性については明らかになっていない。
- ・そこで、「しずかおり」の用途拡大を図るため、被覆適性と香り緑茶適性を明らかにした。

[研究の成果]

- ・一番茶期に被覆資材(遮光率約85%)で10日間直接被覆を行った結果、「収量」は無処理よりも減少する傾向がみられた(図1)。
- ・一番茶荒茶の「官能評価」では、直接被覆により、無処理区よりも水色以外の全ての項目で評点が高く、特に、色沢は濃緑、香気は芳香、滋味はうま味が増し品質が向上した(図2)。
- ・一番茶荒茶の「香気」は、香り緑茶処理により向上したが、比較の「香駿、やぶきた」よりも評点が低かった。また、「滋味」は香り緑茶処理により向上し、上質な甘さが増強され、優しい甘さ・上品な甘さ等の評価があった(図3)。
- ・二番茶荒茶の「香気」は、香り緑茶処理により向上したが、比較の「香駿、やぶきた」よりも評点が低かった。また、「滋味」も香り緑茶処理により品質は向上したが、「香駿」よりも評点が低かった(図4)。

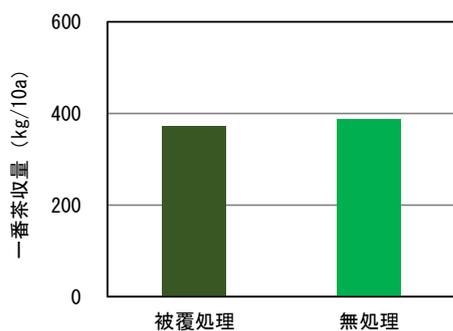


図1 被覆処理(遮光率85%)が一番茶収量に及ぼす影響(10a当たり収量、2019年)

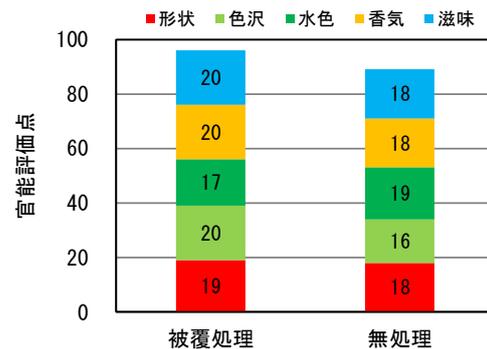


図2 被覆処理(遮光率85%)が一番茶品質に及ぼす影響(各項目20点満点、2019年)

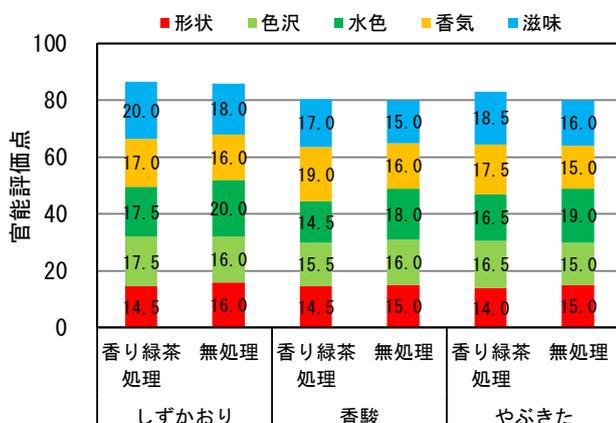


図3 香り緑茶処理が一番茶品質に及ぼす影響(各項目20点満点、2018年)

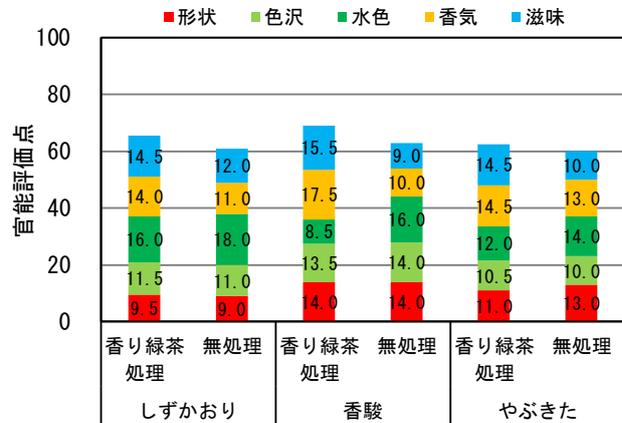


図4 香り緑茶処理が二番茶品質に及ぼす影響(各項目20点満点、2018年)